

# 翻訳小説

っておもしろい!

～フリーペーパー『BOOKMARK』より～



## さよなら、 シリアルキラー

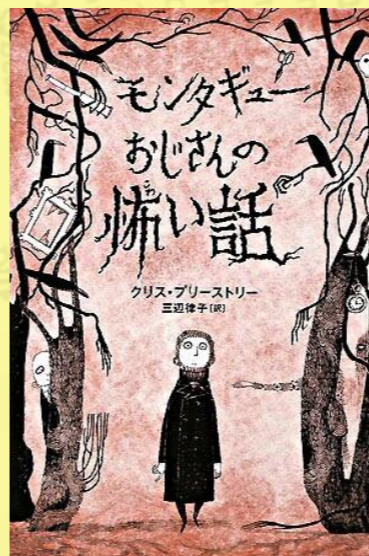
2015年  
東京創元社

著：バリー・ライガ  
訳：満園真木

ジャズは高校三年生。町ではちょっとした有名人だ。ある日、指を切りとられた女性の死体が発見され、ジャズは連続殺人だと保安官に訴える。

なぜジャズには確信があったのか—彼が連続殺人犯の息子で、父から殺人鬼としての英才教育を受けてきたからだ。

親友を大切にし恋人を愛するジャズは、内なる怪物に苦悩しつつも、自ら犯人を捕えようとする。全米で評判の青春ミステリ。



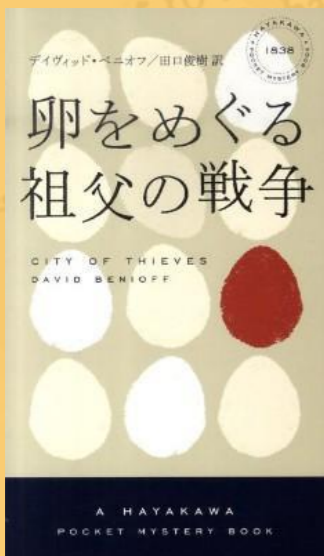
## モンタギュー おじさんの怖い話

2008年  
理論社

著：クリス・プリーストリー  
訳：三辺律子

休暇で帰省しても居場所がないエドガー少年は、謎めいた屋敷に住むモンタギューおじさんのもとへ。

開かずのドア、悪魔の彫刻、砂漠をさまよう精霊…。おじさんの話は怖いけれど、どうしてもなくひきつけられる…。怖いけど、もっと聞きたくなる短編連作集。



## 卵をめぐる 祖父の戦争

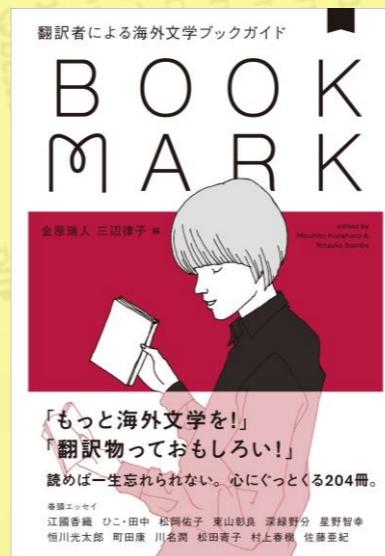
2010年  
早川書房

著：デイヴィッド・ベニオフ  
訳：田口俊樹

「ナイフの使い手だった私の祖父は十八歳になるまえにドイツ人をふたり殺している」

作家のデイヴィッドは、祖父のレフが戦時下に体験した冒険を取材していた。

ときは一九四二年、十七歳の祖父はナチス包囲下のレニングラードに暮らしていた。軍の大佐の娘の結婚式のために卵の調達を命令された彼は、饒舌な青年兵コーリャを相棒に探索に従事することに。だが、この飢餓の最中、一体どこに卵なんて？



## BOOKMARK

翻訳者による  
海外文学ブックガイド

2019年  
CCCメディアハウス

金原瑞人・三辺律子：編

最近の翻訳小説の中で特におすすめのものを選んで紹介している大人気のフリーブックレット「BOOKMARK」が本になりました！

各書籍の紹介は、その書籍の翻訳家が自ら執筆。また、各号の冒頭には、著名作家による書き下ろしエッセイも。

「翻訳物ってこんなにおもしろいんだ」と思っていただけ1冊です。



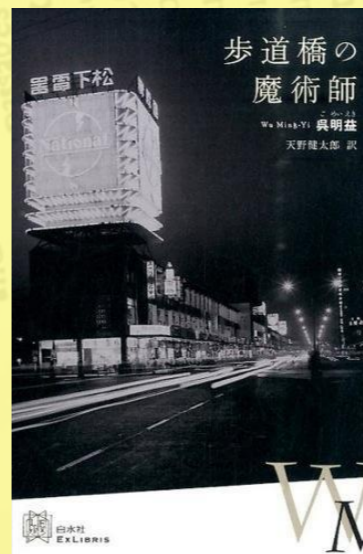
## 猫とともに去りぬ

2006年  
光文社

著：ジャンニ・ロダリー  
訳：関口英子

魚になってヴェネツィアを水没の危機から救う一家。ピアノを武器にするカウボーイ。ピサの斜塔を略奪しようとした宇宙人。捨てられた容器が家々を占拠するお話…。

現代社会への痛烈なアイロニーを織り込んだ、ユーモアあふれる知的ファンタジー短編集。



## 歩道橋の魔術師

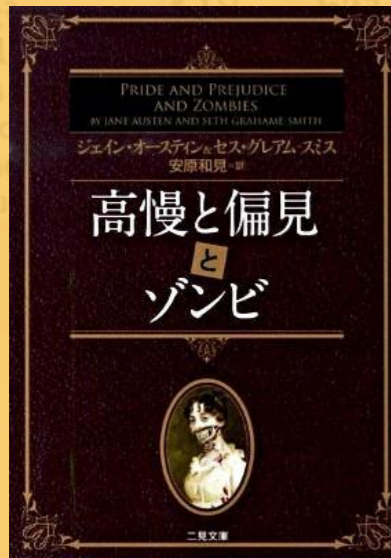
2015年  
白水社

著：呉 明益  
訳：天野健太郎

幼年時代の懐かしい匂い、よみがえる魔法の時間。

1980年代初頭、台北。物売りが立つ歩道橋には、子供たちに不思議なマジックを披露する「魔術師」がいた—。

今はなき「中華商場」と人々のささやかなエピソードを紡ぐ、台湾で今もとも匂な若手による、ノスタルジックな連作短篇集。



# 高慢と偏見と ゾンビ

2010年  
二見書房

著：ジェイン・オースティン  
&セス・グレアム=スミス  
訳：安原和見

18世紀末イギリス。謎の疫病が蔓延し、死者は生ける屍となって人々を襲っていた。田舎町ロングボーンに暮らすベネット家の五人姉妹は少林拳の手ほどきを受け、りっぱな戦士となるべく日々修行に余念がない。

そんなある日、近所に資産家のビングリーが越してきて、その友人ダーシーが訪問してくる。姉妹きっての優秀な戦士である次女エリザベスは、ダーシーの高慢な態度にはじめ憤慨していたものの…。



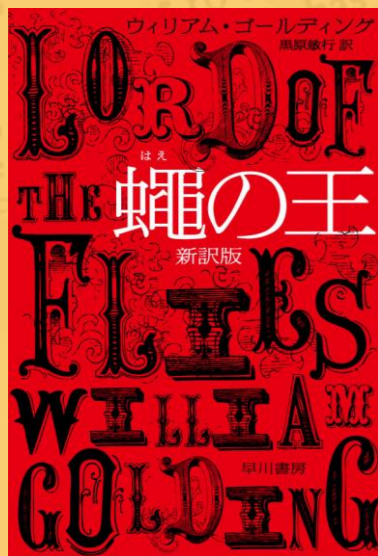
# 凍えつく海の 向こうに

2017年  
岩波書店

著：ルータ・セペティス  
訳：野沢佳織

1945年1月、第二次世界大戦末期。ソ連軍の侵攻が始まるなか、ナチス・ドイツ政府は孤立した東プロイセンから、バルト海を經由して住民を避難させる"ハンニバル作戦"を敢行した。

戦火をのがれようとした人びとのなかには、それぞれに秘密をかかえた四人の若者がいた。海運史上最大の惨事ともよばれる"ヴィルヘルム・グストロフ"号の悲劇を描く、傑作歴史フィクション。



## 蠅の王(新訳版)

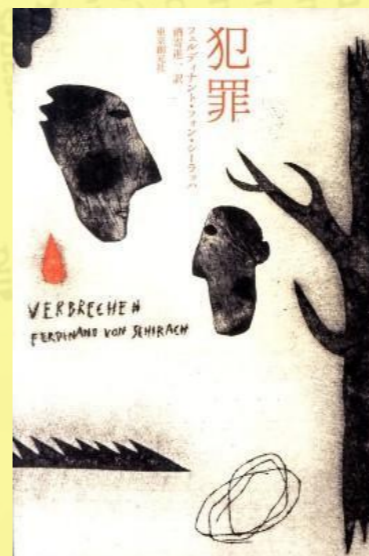
2017年  
早川書房

著：ウィリアム・ゴールドディング  
訳：黒原敏行

疎開する少年たちを乗せた飛行機が、南太平洋の無人島に不時着した。

生き残った少年たちは、リーダーを選び、助けを待つことに決める。大人のない島での暮らしは、当初は気ままに楽しく感じられた。しかし、なかなか来ない救援やのろしの管理をめぐり、次第に苛立ちが広がっていく。

そして暗闇に潜むという"獣"に対する恐怖がつのるなか、ついに彼らは互いに牙をむいた—。



## 犯罪

2011年  
東京創元社

著：フェルディナント・フォン・シーラッハ  
訳：酒寄進一

一生愛しつづけると誓った妻を殺めた老医師。兄を救うため法廷中を騙そうとする犯罪者一家の息子。彫像『棘を抜く少年』の棘に取り憑かれた博物館警備員。エチオピアの寒村を豊かにした心やさしき銀行強盗。

魔に魅入られ、世界の不条理に翻弄される犯罪者たち。弁護士の著者が現実の事件に材を得て、異様な罪を犯した人間たちの哀しさ、愛おしさを鮮やかに描く連作短篇集。



## 月と六ペンス

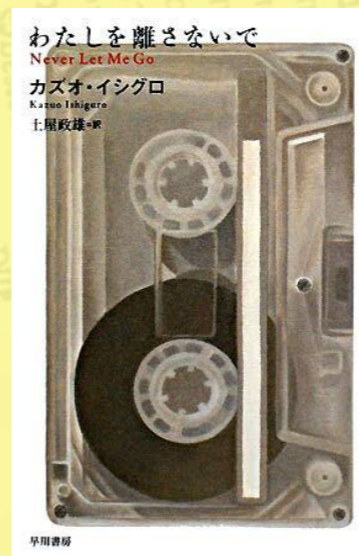
2014年  
新潮社

著：サマセット・モーム  
訳：金原瑞人

あるパーティで出会った、冴えない男ストリックランド。ロンドンで、仕事、家庭と何不自由ない暮らしを送っていた彼がある日、忽然と行方をくらませたという。

パリで再会した彼の口から真相を聞いたとき、私は耳を疑った。四十をすぎた男が、すべてを捨てて挑んだこととは――。

ある天才画家の情熱の生涯を描き、正気と狂気が混在する人間の本質に迫る、歴史的ベストセラーの新訳。



## わたしを 離さないで

2008年  
早川書房

著：カズオ・イシグロ  
訳：土屋政雄

優秀な介護人キャシー・Hは「提供者」と呼ばれる人々の世話をしている。生まれ育った施設ヘルシヤムの親友トミーやルースも提供者だった。

キャシーは施設での奇妙な日々に思いをめぐらす。図画工作に力を入れた授業、毎週の健康診断、保護官と呼ばれる教師たちのぎこちない態度…。彼女の回想はヘルシヤムの残酷な真実を明かしていく――。

全読書人の魂を揺さぶる、ブッカー賞作家の新たな代表作。

NO  
IMAGE



## スノードーム

2005年  
求龍堂

著：アレックス・シアラー  
訳：石田文子

ある日、若い科学者クリストファーが姿を消した。彼は、ひたすら「光の減速器」の研究を続ける、ちょっと変わった青年だった。

失踪の際、彼は同僚のチャーリーにある原稿を残した。そこには、不思議な物語が綴られていた。彼が残した物語は、真実か、それともまったくの空想か。



## 解錠師

2011年  
早川書房

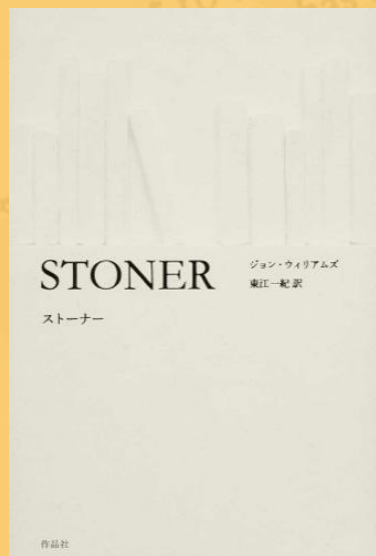
著：スティーヴ・ハミルトン  
訳：越前敏弥

八歳の時に言葉を失ったマイク。だが彼には才能があった。絵を描くことと、どんな錠も開くことが出来る才能だ。

やがて高校生となったマイクは、ひょんなことからプロの金庫破りの弟子となり芸術的な腕前を持つ解錠師になる……

プロ犯罪者として非情な世界を生きる少年の光と影を描き、世界を感動させた傑作！





## ストーン

2014年  
作品社

著：ジョン・ウィリアムズ  
訳：東江一紀

これはただ、ひとりの男が大学に進んで教師になる物語にすぎない。しかし、これほど魅力にあふれた作品は誰も読んでことがないだろう。—トム・ハンクス

半世紀前に刊行された小説が、いま、世界中に静かな熱狂を巻き起こしている。名翻訳家が命を賭して最期に訳した、“完璧に美しい小説”。



## 僕らの事情。

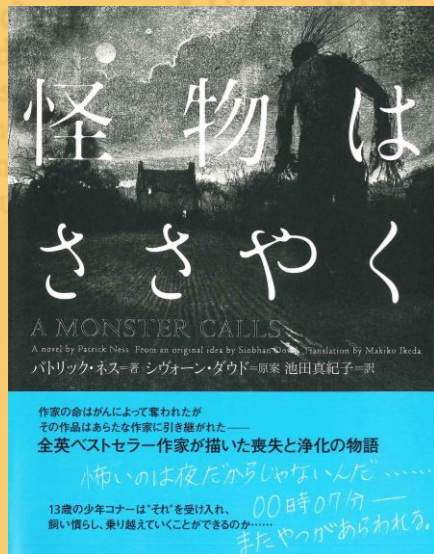
2005年  
求龍堂

著：デイヴィッド・ヒル  
訳：田中亜希子

十五歳の少年ネイサンが語る、親友サイモンとの日々。

筋ジストロフィーという病気で車椅子生活を送るサイモンは、強い個性とユーモアでクラスの人気者。しかし、サイモンの病気は死にいたる病。次第に衰えていく親友に対し、さまざまな思いが交錯し戸惑うネイサン。そんなネイサンも、考えなければならぬ問題や悩みを抱えていた。

何があるかと人生はつづいていく。どんなに悲しいことがあっても、生きることはすばらしい。ニュージーランド発の青春小説。



## 怪物はささやく

2011年  
あすなろ書房

著：パトリック・ネス  
原案：シヴォーン・ダウド  
訳：池田真紀子

ある夜、怪物が少年とその母親の住む家に現われた—それはイチイの木の姿をしていた。

「わたしが三つの物語を語り終えたら、今度はおまえが四つめの物語をわたしに話すのだ。おまえはかならず話す…そのためにこのわたしを呼んだのだから」

嘘と真実を同時に信じた少年は、なぜ怪物に物語を話さなければならなかったのか…。



## 紙の動物園

2015年  
早川書房

著：ケン・リュウ  
訳：古沢嘉通

ぼくの母さんは中国人だった。母さんがクリスマス・ギフトの包装紙をつかって作ってくれる折り紙の虎や水牛は、みな命を吹きこまれて生き生きと動いていた…。

ヒューゴー賞／ネビュラ賞／世界幻想文学大賞という史上初の3冠に輝いた表題作ほか、怜悧な知性と優しい眼差しが交差する全15篇を収録した、テッド・チャンに続く現代アメリカSFの新鋭がおくる日本オリジナル短篇集。